

技術人財育成会の活動報告

○戸所 泰人

大阪大学大学院 理学研究科

1.はじめに

本報告では、大学間連携による技術人財育成の新たな取り組みとして設立された「技術人財育成会」の活動内容とその成果について述べる。大学における技術職員は、教育・研究支援および機器共用事業において不可欠な存在であるが、採用形態や人員構成の制約から、技術継承や人材育成が体系的に行われにくいという課題がある。特に、退職者の補充として採用されるケースが多く、同種業務を担う職員が少ないことから、技術の継承が個人の自己研鑽に依存する傾向が強い。こうした背景のもと、2021年に核磁気共鳴装置(NMR)を題材とした輪読形式のオンライン勉強会が開始され、参加者の増加とともに活動が発展した。2023年には「技術人財育成会」として正式に発足した。

2.技術人財育成会の目的

技術人財育成会は、技術職員の人材育成と技術継承を体系的に支援することを目的としている。従来の集合型研修では困難であった、継続的かつ柔軟な学習環境を提供し、大学・研究機関の技術力の維持・向上に寄与する。また、技術職員同士の交流を促進し、孤立感の軽減、モチベーションの向上、業務への応用力の強化を図ることで、教育・研究の質的向上にも貢献することを目指している。

3.活動報告

今年度も新たなメンバーを募集し、16名の応募があり、質量分析分野で1グループを増設して活動している。現在、NMR、電子顕微鏡、質量分析、有機化学の4テーマにおいて7グループが活動しており、全国の大学・研究機関から延べ67名が参加している。活動の中心は、週1回1時間の輪読形式による共同学習であり、参加者が交代で資料を解説し、質疑応答や議論を通じて理解を深めている。この形式により、継続的な学習意欲の維持、知識の深化、コミュニケーション能力の向上が図られている。また、チャットツールを活用した日常的な情報交換やトラブル対応の知見共有も行われており、技術職員同士のつながりが強化されている。さらに、各グループではテーマごとに趣向を凝らし、実務に直結する知識の習得を目指している。NMRグループでは、遠隔操作システムを用いて、実機での測定演習や構造解析演習も行われており、実践的なスキルの習得を行っている。

4.おわりに

技術人財育成会は、技術職員の育成と技術継承における新たなモデルを提示するものであり、大学・研究機関の技術力の維持・向上、さらには教育・研究の質的向上に資する可能性を有する。特に、従来の研修では困難であった継続的かつ協働的な学習環境の構築に成功した点は、大きな意義を持つ。今後は、育成対象の拡充とテーマの多様化を図り、持続可能な人材育成の好循環の構築を目指す。

謝辞

技術人財育成会は、参加者の皆様のご協力によって成り立っており、深く感謝申し上げます。